

登録有形文化財

# 畑田家住宅活用保存会年報

No.8/2009



Sadao n.

紫式部(庭の植物シリーズ 4)

## <畑田家住宅活用保存会 2009 年度行事予定>

文化フォーラム(2009年5月24日)

お茶と日本人の心

武者小路千家 家元 千 宗守

音楽フォーラム(2009年6月28日)

和の静寂で聴くオペラのアリアとリストのラ・カンパネラ

ソプラノ 畑田弘美 ピアノ 吉山 輝

秋の一般公開と文化フォーラム(2009年11月15日)

奈良の風物詩—千年の時代を照らし出す春日大社の万灯籠を中心に—

石仏研究家・元毎日放送テレビプロデューサー 石濱俊造

第12回畑田塾(2010年3月21日)

クモの糸の不思議

奈良県立医科大学教授 大崎茂芳

畑田家を探検してみよう!

大阪大学名誉教授・畑田家当主 畑田耕一

一級建築士 石井智子

## 子供は風の子

畑田 勇

北風寒い村はずれの野原で、子供達が元気に遊んでいます。風をあげたり、独楽を廻したり、鬼ごっこをしたり、かくれんぼをしたり、あるいは三角野球(三ベースの簡単な野球)をしたり、男の子も女の子も一緒にあって、はっしゃいでいます。このような光景はほとんど見られなくなり、前世紀の残像となってしまった様な気がします。

村の近くで行われている道普請(道路造成工事)の現場で、上級生の掛け声「皆でトロッコを押せ」、言われるままに子供達はヨイショ、ヨイショ・・・坂道の上まで来たとき、「ヨシみんな乗れ」、畳一枚分もない狭いトロッコに4～5人が飛び乗って、ゴットン、ゴットン滑り始めます。刻一刻とスピードが出てきて、子供達はとても気分爽快、いい気持ちで風を切る。途中でバランスが崩れてトロッコが脱線転覆。擦り傷、切り傷も何のその。再び号令がかかってヨイショ、ヨイショが始まります。

楽しかったあの時、面白かったあの頃が懐かしく走馬燈のように脳裏に浮かんできます。

幼年期を過ぎて学童となり、小学校へ通い始めた頃には、集団的遊びの楽しさを覚え、子供時代を経験し、長い人生の中の初期の、人々のいる社会の中での活動が行われるのです。幼い体験ではありますが、将来の成長、進歩、発展に繋がる貴重な「人生の一齣」であると考えられます。

少子高齢化の時代に育つ子供達は、今何を考えているのでしょうか。次々に発売されるテレビゲームに熱中するあまり、外の世界との接触・交流を忘れ、成人しても偏重した人生しか理解できなくなるのではないのでしょうか。個性は尊重するが、幅広い素養をしっかりと身につけて欲しいと願っております。

### 新正会員

織川久子	栄谷 愛	庭野正廣
------	------	------

### 新特別会員

浅田 稔	岡田伸太郎	畠中政信	宮原秀夫
------	-------	------	------

## 平成 20 年度 事業報告

- 春の一般公開と音楽フォーラム 3月16日  
野津臣貴博・吉山輝デュオリサイタル  
フルート 野津臣貴博  
ピアノ 吉山 輝
- 第10回畑田塾 5月25日  
「大工さんの技に学ぶ」  
羽曳野市役所維持管理課 畠中政信  
「ロボットと仲良しになろう」  
大阪大学大学院工学研究科教授 浅田 稔
- 畑田家住宅見学会 10月3日  
羽曳野市立植生南小学校4年生
- 秋の一般公開と社会フォーラム 11月16日  
「少子化をめぐる話題ー将来の社会と医療を考える」  
大阪大学名誉教授 岡田伸太郎
- 畑田家住宅見学会 12月4日  
羽曳野市立丹比小学校4年生
- 豊中市立新田小学校への出前授業 12月9日  
「古い家の生活の工夫」  
大阪大学名誉教授 畑田耕一
- 第11回畑田塾 3月22日  
「畑田家住宅を描いてみよう」  
宝塚造形芸術大学教授 中村貞夫  
「インターネットを正しく使うには」  
大阪大学名誉教授・前大阪大学総長 宮原秀夫
- 出版  
「読書の楽しみ」(出版シリーズ No. 6)  
大阪大学名誉教授・放送大学  
大阪学習センター所長 柏木隆雄

## 役員

- 会 長 畑田 勇  
副 会 長 甲斐学、中村貞夫、畑田拓男  
事務局長 畑田耕一  
幹 事 石井智子、奥田 寛、織川久子、  
笠井敏光、畑田弘美、矢野富美子  
会 計 畑田庸雄  
会計監査 澤田秀雄、塚本昭光

表紙絵：紫式部(むらさきしきぶ) 小粒の紫の実のあざやかさは人の心を和らげるものがあります。この年は彼岸花と時を同じくしてスケッチしました。元、植えた場所のものは立ち枯れて、鳥が実を運んだのでしょうか、別な場所へ移って、元気に実を付けています(中村貞夫)。

本年の行事に参加していただいた方々からの感想文

野津臣貴博—吉山輝デュオリサイタル

(2008年3月16日)

ひんやりした家の中は、まるで別世界へタイムスリップした様な雰囲気でした。歴史ある畑田家住宅でのフルートコンサートは、今まで耳にしたことのない素晴らしい演奏会でした。客席と奏者があまりにも近すぎ、さぞやりにくいのではないかと、こちらが余計な心配をしているのをよそに、次々と大曲を演奏されるソリストのお二人には、感激しました。目の前で演奏されるフルートの音色は、始めは素朴で単純な優しい響きがして、暖かい雰囲気を醸し出していましたが、プログラムが進むにつれ、オペラのアリアを聴くような荘厳さに溢れ、客席を圧倒していきました。大きなホールでの演奏会では決して味わうことのできない、貴重な体験でした。フルートをはじめ、ほとんどの楽器は、自分の楽器を使うことができますが、ピアノだけはその会場にある楽器を使うしかない宿命にあります。しかし、この演奏会を聴いて、良い演奏は、楽器云々ではなく、素晴らしい奏者によって造られるものであることを痛感しました。畑田家住宅のアップライトのピアノは、さぞ幸せ者であったと想像しております。また、このような機会があれば是非、聴かせて頂きたいと願っております。

(長戸みのり)

一流の演奏家がお二人、息遣いが聞こえる距離での演奏、何もかもが新鮮でワクワクする時間が経過し、演奏家と聴衆が一体と成った感じがしました。古い畑田家の広間と天井の高さ、限られた空間の中で音が共鳴し、コンサート会場では味わえない感動に堪能しました。建物の古さ、楽器の古さもまた美しいハーモニーを醸し出すのかもしれませんが、演奏家のお二人の熱意と挑戦する意気込みに引き込まれました。とても素敵な時間でした。

(八尾ニューモラル生涯学習クラブ 木村千代子)

どうして、あれだけ丁寧に質問にお答えいただけるのだろうか。そのことだけでも、今回畑田家住宅でのデュオリサイタルに参加した価値があった。質問一つ一つを十分に尊重し、その価値を引き上げた上で答えてくださっている。質問してよかったという感動が残る。はにかみや正直さまで、そのお心が見えるようだ。音楽会に参加した以上に、人に出会えた充実感を覚える。歴史ある名器の醸し出す雰囲気なのか、伝統家屋・畑田家住宅のなせる業か。ますます、畑田家のイベントには目が離せない。

(八尾ニューモラル生涯学習クラブ 神野武男)

好天の日曜日、畑田家に到着したのは開始10分前で席は最前列の2、3席を残すのみ！座高が高いため恐縮で背を丸めて着席しましたが、目の野津さんと吉山さんの演奏が始まると、そんなことはすっかり忘れ夢中で聴かせていただきました。貴重な木のフルートを拝見し、仕組みも初めて知りました。畑田家住宅の温もりの中で、宮廷音楽ながら素晴らしい機会を得られたことに感謝致します。

(大阪市 早川亜津子)

第10回畑田塾 (2008年5月25日)

「大工さんの技に学ぶ」

羽曳野市役所維持管理課 畠中政信

「ロボットと仲良しになろう」

大阪大学大学院工学研究科教授 浅田稔

日本で今一番忙しい？とも言われる児童・生徒の参加者が10人もあったことに、一参加者として嬉しさを禁じ得ませんでした。加えて、子どもに、未来の羽曳野市を支える若者に思いを寄せる塾長の熱い情が沸々と伝わる数時間でもありました。

強い国(競争力のある国)を目指すとして、グローバル化の美名の下に、日本の良き伝統までもが次々と捨てられてきた、これが私の実感です。新建築基準法により、木の素材を生かし、日本の風土にあった伝統的な木造建築が遠ざけられているのが事実なら、それもグローバル化の流れなのでしょう。しかし新しい建築基準法による建造物は30年強しか持たないとすれば・・・。

ところで、今、世の中に存在する物の多くは人間の願望の産物です。例えば、早く楽に遠くへ行きたいという願望が自動車を生み、何処からでも、何処へでも連絡したいとの夢が、携帯電話やインターネットを世に送り出しました。

自動車には、交通事故や排気ガスなどの負の部分があるが、携帯電話やインターネットには、有害サイトや迷惑メールのような負の面が伴っているように、ロボットにもマイナス面が出てくるに違いない。でも、浅田先生の話の通り、それを利用する人間が、理性によって負を減ずる努力を続けるしか方法はありません。願わくば人間の心を見透かすロボットの出現だけは御免こうむりたいものです。

(八尾ニューモラル生涯学習クラブ 池上和彦)

昔の技を今に伝える「大工さんの技」と最新鋭の「ロボット」の話に共通するものを見つけました。それはどちらにも、作る人の人柄が反映されると言うことです。このことは何時の時代にも、変わらないことなのだと改めて確認できました。畠中さんの話の中で「木は切ってからでも生き続けている」と言う言葉にとっても興味を感じました。生きている木をボルトで縛るということは、便利さ、早さを追求しながら、却って、不自由さを味わっているのではないかと考えさせられました。

一方、浅田さんの「ロボットだって人を傷つけるかもしれない、何故ならそれは私達人間が作っているのだから」というお話にドキッとしましたが、同時に、すべて作り手の人柄が反映されるということに気付かされたわけです。小学生にはかなり難しい内容だと思いましたが、その年齢なりに感じるものが有るはずですし、子供たちもきっと良い経験をしているのではないかと思います。

(八尾ニューモラル生涯学習クラブ 木村千代子)

今回の畑田塾では、日本建築とロボットについて学ぶことが出来ました。大工さんからは日本固有の建築スタイルを実際の建材を用いて教えて頂きました。日本固有の建築方法は現在の工法と比較して木材を無駄にせず、木を生か

した状態で建てられるので、長くもつことが分かりました。ロボットでは、一見機械工学で考えられているように見えるが、関節の動きや知覚といった要素があり、突き詰めると人間の行動を見る人間工学で考えられていることが理解できました。古いものから新しいものを見る、また、新しいものから古いものを見る、二つのものの見方を今回の畑田塾で学ぶことが出来たと思います。(岐阜県 浅野育洋)

### 少子化をめぐる話題—将来の社会と医療を考える

(2008年11月16日) 大阪大学名誉教授 岡田 伸太郎  
日本で少子化が進んでいるのは、日本が文明的に安定してきた、個人の生き方を優先できる社会になってきたこと、また、生まれることと、死ぬことは一体だというのが、社会の仕組みが変わって、人が死ぬということを目にすることが少なくなってしまったことが原因だと思えます。衣食住の満ち足りた人が多い中で、自分自身が生きているということ、身をもって実感する機会がほとんど無くなってしまいました。命の有限さを実感するから、人は子供を育てようという気持ちになるのです。そういう生命の実感ができれば、少子化も変わるのかもしれませんが。社会が少子高齢化しているのであれば、社会の仕組みや常識をそれに対処できるように、変えていくことが必要です。時間が経てば、物事が変わるのは当然で、それに対する柔軟さが必要だと思います。テーマが深く、お話の後の討論では、様々な意見を伺うことができ、有意義な3時間でした。

(石井由香里)

少子化問題の講演を拝聴して、問題の解決の道には様々な壁があり、険しく狭いものだと改めて実感いたしました。少子化が始まったのは最近のことではなく、1960~70年代の高度成長期にすでに始まっていたのだと思っています。あの頃、急激にサラリーマンの数が増え、住宅不足になっていきました。そのために多くの団地が造られたのです。その団地にすむ家族モデルは夫婦2人子供2人の4人家族でした。その家族モデルが次第に一般化し、私たちにそれがすり込まれていったのかもしれませんが。その後、時代とともに個人の生活に重点が置かれるようになり、さらに少子化に進んだのだと思います。

さて、少子化と騒いでいるばかりで、具体的な策は出されていません。育児休業制度も、企業の強い後押しがない限り推進策で終わるだけです。女性が結婚するときに、退職を暗に勧められることがあるそうです。それで、たとえやめるつもりでいても、やめる直前まで結婚のことはいわないそうです。男性の場合に、そんなことを聞いたことがありません。育児休業に至っては、制度を利用する人が非常に少ないのは周知のことです。公務員は福祉制度がきちんと守られているのでとるのが当然と思っていますが、民間の企業では、先ず、私たちの意識改革、企業の努力、国

の強力な政策なしには進みそうにありません。

また、最近の労働時間の増加を見過ごすことは出来ません。週40時間というのは名目だけです。私が非常勤の嘱託で働いている学校現場も同様です。朝8時前から夜7時、8時頃までというのが日常化してきています。さらに土曜日、日曜日でもクラブ活動や雑務で勤務というのが普通です。こんな生活では少子化になるのは仕方がないかもしれません。考えれば考えるほど、五里霧中になってしまいます。今は、社会状況の安定化が直近の問題のように思います。

(放送大学 白木和子)

先進国では出生率が低下しています。特に、日本ではその傾向が強い。このまま進めば、日本人は消滅し、人類も消滅するかもしれません。実際はそんなことにはならないでしょうが、岡田先生の示されたデーターは最悪の事態をも予想させます。いま、「子供を産み、育てられる環境」が整っていないのは事実です。家庭、家族内だけで子育て環境を整えるのは難しく、政府や自治体がなんとかすべきであって、育児手当を増やせば済むという問題ではありません。子育て支援制度の拡充など地域でのサポートや、産科、小児科の医師不足だけでなく、医療現場の根本的な見直しが必要ではないでしょうか。健康保険未加入家庭の子供に対する保険適用、365日気軽に育児相談できる施設、費用負担の少ない乳幼児の託児所、保育園、学童保育の拡充など義務教育が終わるまでは、安全、安心に育てられる環境整備が求められます。子供を産み、育てる事はあくまで個人の問題であり、また責務ともいえます。しかし、そのための家庭や学校での教育が十分とは思えませんし、それについての親としての自覚も、少なくとも戦後の教育を受けた我々の世代も含めて、確実に低下しています。もし、これが続けば、日本人は消滅することになりかねません。

(放送大学大阪学習センター 近藤芳史)

### 第10回畑田塾 (2009年3月22日)

「畑田家住宅を描いてみよう」

洋画家・宝塚造形芸術大学教授・新制作協会員 中村貞夫

「インターネットを正しく使うには」

大阪大学名誉教授・前大阪大学総長 宮原秀夫

この行事の感想文は編集の都合上、次の年報に掲載します。



## 道徳と科学

大阪大学名誉教授・大阪府登録文化財所有者の会長  
大阪府教育委員会文化財保護課主査  
兵庫県立豊岡高等学校教諭

畑田耕一  
林 義久  
澁谷 亘

最近、毎日のように、個人の道徳的能力や職業倫理を疑わざるを得ない事件の報道に接する機会が増えてきている（参考文献1参照）。科学・技術が進歩し、それが日常社会の中に深く浸透しつつある今、科学者・技術者を含む全ての市民に要求される道徳的能力についても、これまでとは異なる対応が必要になっている。1903年アンリ・ベクレル、マリー・キュリー、ピエール・キュリーの3人が、ウラン放射能の発見とそれに誘発された新元素ラジウムの発見により、ノーベル物理学賞を受賞した。そのときの受賞記念講演で、マリーの夫ピエール・キュリーは「ラジウムは、がんの治療に役立つなどいろいろ有益な面がありますが、犯罪に使われれば極めて危険なものであります。私個人は、ノーベルが考えたように、人類は新しい発見によって、悪い面を克服して一層大きなものを生み出していく英知を持つと考えています」と述べている（参考文献2）。100年以上前に、科学・技術と人間のかかわりを道徳という面からとらえた鋭い指摘である。本稿では、科学と道徳の根底の力は、どちらも、持てる知識をもとに実際に経験していないことをあれこれと推量する力、すなわち、想像力であるという観点から、人間の道徳的能力を考えてみたいと思う。

**創造は想像の集積** 1895年、低圧気体中での放電の研究中に、ドイツのレントゲンがX線を発見した。この発見が「蛍光物質からもX線が出ているのでは」という想像を呼び起こし、蛍光物質の研究をしていたフランスのベクレルは蛍光物質の一つであるウラン化合物を調べ、1896年に蛍光現象とは無関係に透過性の放射線がウランから出ていることを発見した。ベクレルの発見に刺激され1897年末に博士論文のテーマとして放射能を選んだマリー・キュリーは、純粋なウランよりもウラン鉱石からの放射線の方が量が多いことに注目し、放射線の量を測定する装置を開発した夫ピエール・キュリーの協力のもと、ウラン鉱石中に含まれる「強い放射線を出す物質」を化学的に分離することにより、1898年にポロニウム、ついでラジウムを発見した（参考文献3）。自然科学の世界では、知識とそれに基づく想像力の発揮が新しいものの発見と概念の創出に繋がるのである。

自然科学は、自然界に起こるいろいろな現象をよく観察し、そのメカニズムを明らかにする学問分野である。それを通して、科学者や技術者は新しいものや技術・概念をつくろうとする。新しく物を創るとき、新しい概念を創り出すときにも想像力が必要である。まず、問題とする新しいものや概念を仮に設定し、それまでの知識、手法、概念などの集積をもとに、想像と実験を繰り返したり、他人の意見を聞き、議論したりしながら、新しい物や概念に到る道を模索する。どうしてもうまくいかなければ、また想像力を働かせて別の道を探る。この過程での優れた思いつきや直感も想像力に起因するものである。想像を実行に移しその成果を検証するという過程を繰り返して、目的を達成し、新しい物や概念を創り出したとき、その人の想像力の集積結果が創造力として評価される。最初に、いかにして科学的に意義の深い目標を設定するかも想像力に依存する。したがって、科学の根底の力は想像力である（参考文献4）。

**道徳的能力の根源も想像力** 一方、道徳的能力の基本は、人間が他の人々や動植物を含む自然環境に対して、どのような態度を取るべきかを適切に判断する能力である。そのような判断を下すには、人以外の動植物やものとのコミュニケーションが出来なければならない。人以外の動植物やものは人間の言葉をしゃべらないので、それらとのコミュニケーションは想像力に頼るしかない。また、社会人として真つ当に生きていくためには、過去に学び、未来を予測することが必要である。そのためには、既に亡くなった人やこれから生まれてくる人との想像力を駆使したコミュニケーションも要求される。言葉による対話の可能な人との相互理解でも想像力を働かさなければならないことがある。想像力の働かせ方は、相手の国、年齢、経験などによって変わらざるを得ない。想像力を働かせて行う判断の基準、人間が自分の中に持つ裁判官のようなもう一人の自分の判断も、人それぞれに少しずつ異なるのが普通である。したがって、自分が他に対してどのように振舞うべきかを考えるときに、相手の判断基準について想像力を働かせて考慮しつつ、判断することが必要になる。このように考えれば、道徳的能力を発揮するための根源の力は、科学の根底の力と同様に、想像力であるということになる。生きる力の根源は想像力であるともいえる（参考文献4）。

したがって、想像力豊かな優れた科学者・技術者は、適切な善悪の判断基準さえ持っておれば、優れた創造性を発揮できるだけでなく、道徳的能力も高い人間ということになる。ピエール・キュリーが危惧したような科学の悪用が科学者・技術者自身の考えによって行われる可能性は非常に低いと考えてよい。核兵器のような科学の悪用は、社会を構成する一部の人間の科学に対する無理解と道徳的能力の低さが、科学者・技術者に不当な圧力をかけた結果と考える方が妥当である。

ここで、大事なことは、放射線を医療に使用するとき、患者が放射線被爆によってある程度の健康障害を受けるといような科学のマイナス面を、科学の悪用と混同してはならないということである。医療用の放射線による障害や医薬品の副作用という様な、科学のマイナス面は如何に優秀で道徳的能力の高い医者が治療を行っても、ある程度は避け難いものである。科学のプラス面を出来るだけ大きくし、マイナス面を出来るだけ小さくすることは、科学者・技術者の大事な仕事、責務である。そして、市民はこの仕事に全面的に協力しなければならない。「それは科学者・技術者の仕事」と傍観してはいけない。ただ、科学者・技術者は、問題の所在とその意味を市民によく説明し、市民の支援を得るためのコミュニケーションを図ることが必要である。科学者・技術者と市民双方の想像力の高さの間われる過程でもある。

**想像力を養うには** 想像は誰でも何処でもできる。子供のころ、高くて薄暗い天井の板の木目をじっと眺めていると、人の顔や動物、時には恐ろしい鬼など、実にいろいろなものが眼前に浮かんできて退屈しなかったのを覚えている。伝統的な木造住宅には、そこに住んできた人たちの生き様を示す構造や道具、生活の工夫がいっぱい詰まっていて、想像力を働かせて、今はもういない昔の住人と話をしたり、これから生まれてきてそこに住むかもしれない人と話をしたりするようなことが可能となる。このように、古い家は潜在的な教育力、すなわち住育の力（参考文献1）を持った教室である。他人には秘密にしておきたいような空想の世界、他人とは共有しようの無い夢想の世界、そこにゆったりと遊ぶことの出来たものは、やがて長じるにつれて他人と共有可能で、しかも個性豊かな創造の世界に進んでゆけるのではなかろうか。

多くの人々が登録文化財のような古い伝統的な木造住宅に住み、自分のおじいさんやおばあさんが造った家という思いを持って、住む家を慈しんでいた頃は、子供たちはごく自然に想像力を養い、道徳的能力を高めることができた。今はそのような環境は皆無に等しくなった。それを補い、今の子供たちの想像力を高めるための教育上の工夫が必要である。小学生の文化財建造物の見学や文化財所有者の出前授業などもその一つではあるが、根本的には学校の授業で、想像力発揮の根源となる知識を十分に学ばせ、その知識をもとに、さまざまな現象や物に対して、生徒自身の好き嫌いにかかわらず、興味・関心・好奇心を持って考えさせることが重要である。想像力は、子供には少し難しいかなと思えることを、あれやこれやと想像をめぐらしつつ考えさせることで高められる。自分で問題を見つけ、それを教員の助けを借りつつ自分で解決するという総合的な学習の目標が子供たちの想像力向上にあったことを、国民は深く認識して欲しいと思う。

**公正な判断基準** 如何に想像力が豊かでも、それに基づく判断が人間を不幸に陥れるようでは、道徳的能力の豊かな人とはいえない。人は常に自分の中に公正な判断のための基準を持たねばならない。この基準はあくまでも個人的なものではあるが、大事なことは多くの人に是認されるものであって、且つ、人々の幸せを生み出せるものでなければならない。その一例として、ロータリーの四つのテストを紹介する。

<四つのテスト>

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの役に立つか

これは、われわれが何かを考えたときに、それがこの四つの全てに適合しておれば、実行しても良いとする判断基準である。自己の判断基準を考えると参考にしていただければ幸いである。

**おわりに** 最後に、今われわれが考えている道徳的能力があまりにも人間本位ではないかという点について述べる。国際自然保護連合の最近の報告（参考文献5）によれば、世界の哺乳類の4分の1（1141種）が、主に人間活動の影響で絶滅の危機にあり、うち188種は絶滅寸前、29種はもう手遅れの状態ということである（参考文献6）。このような状態を招いたのは、哺乳類の一種である人間の生活活動であり、それに科学と技術が関わっていることも事実である。これまでの人間の道徳的なものの考え方があまりにも人間本位の視野の狭いものであったことになる。科学者・技術者の道徳観、倫理観があらためて問われる時代に入ったということである。

## 参考文献

- (1) 登録文化財建造物の住育力と道徳教育、畑田耕一、林 義久（2008年5月22日）  
<http://culture-h.jp/hatadake-katsuyo/tohroku-dohtoku.pdf>
- (2) 中西孝、金沢大学市民講演会「キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念講演会」要旨集、6頁
- (3) 中西孝、金沢大学市民講演会「キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念講演会」要旨集、7頁
- (4) 道徳的能力と想像力、畑田耕一、林義久、澁谷亘（2009年2月5日公開）  
<http://culture-h.jp/hatadake-katsuyo/dohtoku-sohzo.pdf>
- (5) “The Status of the World's Land and Marine Mammals: Diversity, Threat, and Knowledge” Jan Schipper(E-mail: [jan.schipper@iucn.org](mailto:jan.schipper@iucn.org)) et al., Science, Vol. 322.No. 5899, 10 October 2008, pp. 225 - 230
- (6) 「天声人語」、2008年11月15日、朝日新聞朝刊

## 茶室で聴くコンサート

ピアニスト 吉山 輝

畑田家住宅で畑田弘美さんと初めてコンサートをさせていただいて以来、ヴァイオリニストやフルーティストを招いて何度となくコンサートが開かれました。この畑田家で開くコンサートには、コンサートホールでは体験できない、独特の音の共有があります。何が違うのか、その辺を探ってみようと思います。

**まず、楽器と空間について：**イタリアのフィレンツェでクリストフォリがピアノを発明して以来、ピアノはこの300年間でさまざまな変化を遂げてきました。大きな流れとしては、もともと宮廷で開かれていたコンサートが、コンサートホールで開かれるようになり、そのホールもより大きなものへ、すなわち次第に大きな空間で演奏されるようになっていきました。それに伴い、楽器にもより大きな音量、音の持続が求められるようになり、また楽器だけでなく、ホール自体もより高度な音響が求められ、楽器同様に進歩を遂げてきました。楽器もホール(空間)も、たくさんの人数で聴くがために進歩を遂げてきたようなものです。

**次に、音楽の表現について：**演奏は会話と同じで、奏者と聴き手の距離の違いで話し方(演奏)が自ずと変わってきます。離れば離れるほど、よりはきはきと表現しないと伝わりにくくなります。つまり、離れるほど無理をしないといけなくなります。畑田家住宅のような空間では、奏者と聴き手が同じ空間にあるため、特別な楽器もこだわった音響もいらず、また、無理なく自然に語りかけるような表現で、音楽を伝えることができます。これにより、聴き手も自然体で音楽を味わいやすくなっていると思います。

しかしこれだけなら、他でも開いているサロンコンサートと変わりありませんが、畑田家住宅の場合は独特の世界があるのです。一般に音楽で高揚を表現する時は大きな音で、逆に安らぎを表現する時は静かな音で表現します。要するに高揚すればする程大きな音になるのですが、最大音量が一番緊張感を生むかといえばそうではなく、また最も穏やかな音が一番の安らぎを生むのでもありません。一番の緊張を表現するのも、一番の安らぎを表現するのも「無」です。つまり休符。無音は先を予想できないがために緊張を生み、また、永遠の安らぎをも生み出します。このように、人の想像力こそが無限の力を持っているのです。音楽を聴く場合、この無を皆で共有することが、より深い音の共有につながります。これは音楽に限らず、たとえば書道では皴ひとつない真っ白な半紙の上に書表現するのに共通します。また、茶道では、無の空間である茶室で美を味わうのにも似ているのではないのでしょうか。

緑に囲まれた木造建築の畑田家住宅。この和の静寂で聴くコンサートは、まさに茶室で聴くコンサートのように。独特の音の共有は、この畑田家住宅が生み出しているのです。



＜編集後記＞ 皆様の変わらぬご支援によりまして、保存会の活動も幅広く、ゆるぎないものになってきています。様々なテーマの内容を熱心に聞き、討論して下さった参加者の方々、貴重な時間を割いて下さった演者の先生方に深く感謝いたします。ホームページの文・随想欄とみんなの科学欄にも色々な文章をご寄稿いただいています。これらをまとめて出版することなどの基金として別途積立を始めました。また、今年度は文化庁の委託事業として小学校4年生の来宅見学会、畑田耕一事務局長による小学校への出前授業などが行われました。第5回畑田塾で、自然は整っていて美しいことを語ってくださった堀川明先生が今年2月に亡くなられました。謹んでご冥福をお祈りいたします。(S.N.)

## 文化向上への高い志



放送大学大阪学習センター所長・大阪大学名誉教授 柏木隆雄

畑田家住宅保存会出版シリーズの第6号として、私の「読書の楽しみ」を出版していただいた。鷺田清一大阪大学総長の講演と、司会の畑田先生及び出席者との質疑応答の有様をも収めた充実した前号の内容と較べると、大いに見劣りがして誠に恥ずかしい次第だけれど、さて、写真も幾葉か挿し込まれ、かつ誰の目にも見やすい大きなポイントで印刷されていると、なんだか嬉しい気分になって、また何度か読み返してみたりするから現金なものだ。

もともとは、今から5年前の3月23日に羽曳野市にある畑田家にお邪魔して、畑田先生の司会の下に、小・中学生、その保護者の方々、さらに保存会の皆さんの前で話したもので、その時は李賀の詩とロンサールの詩を中心に話をした。生徒の皆さんのお行儀の良さに何よりも驚き、またその機会に、私の二代前の阪大仏文学講座の主任教授原亨吉先生の退職記念に捧げられたエッセーでお名前を知っている阪大仏文の大先輩、中村貞夫画伯（画伯が畑田先生の義兄でいらっしゃる、畑田家住宅にアトリエを構えていらっしゃることを、その時初めて知った！）にお目にかかってそのアトリエも拝見することができた。画伯は実に大きな画布に日本のみならず、世界の壮大な自然を見事に描かれるが、それはこのアトリエあってこそ、と感じ入ったことだった。

今度の原稿は、その時の話に、現在自分が切実に感じている「読書の危機」、「想像力の危機」について、私なりに訴えたいこともあって、余談も含めて少し長く書かせていただいた。畑田先生ご自身もその問題に強い関心を抱かれていて、もったときちっとその辺をお書きなさいと懇諭もされた。畑田先生は保存会出版シリーズに責任者としてその名を刻してられるが、単なるお飾りの責任者でなく、提出した原稿のチェックはもとより、文章の構成から措辞、語法に至るまで限なく、徹底して行ってくださり、いい加減に済まず癖のある、文学の専門家を自称する私に痛棒を食らわせられること、再三にわたった。おかげで、私一人ならずいぶん杜撰な文章となったところを、大いに面目を一新することになった。他の先生方の文章も畑田家住宅活用保存会のホームページにも掲載され、大いに好評であると聞く。願わくば、未見の読者を多く得て、またいろいろにご意見も頂き、単に羽曳野市のみならず日本全体の文化向上に資する高い志の出版シリーズの意義をますます噛みしめたく思っている。

平成19年1月1日から平成20年3月31日までの収支決算

収入の部	
前年度繰越金	100,865
会費	728,500
寄付金	75,500
雑収入	15,120
合計	919,985

支出の部	
講師謝礼	336,500
アルバイト料	37,000
資料・年報・出版作成費	351,110
通信費（郵送料、振替手数料等）	25,747
事務用品費	15,087
雑費（講師接待他）	78,998
次年度繰越金	75,543
合計	919,985

平成20年4月1日から平成21年3月31日までの収支決算

収入の部	
前年度繰越金	75,543
会費	484,000
寄付金・協力金	118,500
雑収入	32,940
合計	710,983

支出の部	
講師謝礼	183,600
資料・年報・出版作成費	250,950
通信費（郵送料、振替手数料等）	14,630
事務用品費	28,625
雑費（講師接待他）	76,420
別途積立金	100,000
次年度繰越金	56,758
合計	710,983

事務局 〒583-0874 大阪府羽曳野市郡戸1-1 畑田 勇 電話072-955-4380  
**会費の納入**は郵便振替(口座番号 00980-2-41107 加入者名:畑田家住宅活用保存会)へお願いします。